

新たな中部圏広域地方計画の策定にあたり、未来を担う若者の意見を参考とするため、名古屋市立大学の学生を対象としたワークショップを開催。

【実施日】令和5年11月9日(木) 13:00~15:40

【参加者】名古屋市立大学 人文社会学部
林(浩一郎准教授)ゼミの2~4年生 20名



若手職員もファシリテーターとしてサポート



【学生の主なコメント】

テーマ①若者・女性の中部圏外への転出の対策について

- ・ メディアが伝える情報は東京のことが多いので、自然と東京への憧れが生まれている。
- ・ 名古屋は「ほどほど」に80点レベルで揃っており住みやすい。その「ほどほど感」を体感してもらうため、全国の高校生がリニアを使い名古屋を訪問して大学生生活を体験する「リニア留学プログラム」を行政などが企画してみたらどうか。
- ・ 端的に表現すれば東京は「挑戦」、中部は「安定」。中部圏にも挑戦できる場があればよい。
- ・ 子育てを考えた時にUターンしてもらえる、住みやすいまちづくりを進めていったらよいのでは。

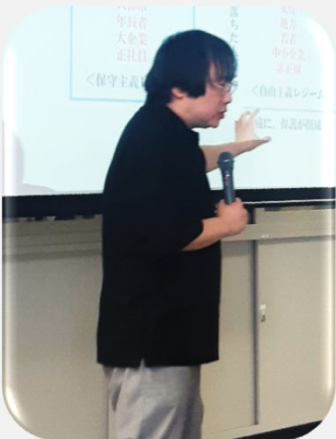
【学生の主なコメント】

テーマ②リニア開業に伴い地域が受ける影響と期待するまちづくり

- ・ 中間駅の長野、岐阜ともに観光資源は豊富で行ったら楽しい。でも観光地まで行くのが大変。リニア駅を観光地への乗り換え拠点としてハブ化することが重要。現状では車がなければ移動できないため、二次交通の充実が不可欠。
- ・ 現在の中間駅周辺には若者が時間を過ごせるような魅力的なスポットがほとんど無い。
- ・ いくら都市化しても東京にはかなわないので、名古屋ならではの親近感・肩肘張らない雰囲気をもそのまま伝えていくまちづくりが望ましい。

テーマ③地方における持続可能な生活圏の構築に向けて

- ・ 田舎に関わりを持ちたいと思っている都市住民を対象とした「ふるさとマッチングアプリ」をつくり、関係人口の拡大につなげていってはどうか。
- ・ 「ボランティア精神」だけで地域の維持は困難な点も。地域への貢献をポイント化・可視化した上で、地域通貨として使えるようにするなど、地域に貢献したくなる仕組みづくりが必要。



【指導教官 林先生より】

- ・ 現代社会で周辺部に追いやられた属性を持つ者の生きづらさ(閉塞感)をいかに改善するかが問われている。その意味で、国土計画で「地方・若者・女性」に着目するのは、大きな意義がある。
- ・ 名古屋がリニア時代において東京に飲み込まれないよう、地域の文化的アイデンティティを強化し、地元資本による地域経済をしっかりと確立することが肝要。

新たな中部圏広域地方計画の策定にあたり、未来を担う若者の意見を参考とするため、名古屋大学で情報系を学ぶ学生を対象にワークショップを開催

【日時】 令和5年11月13日(月)13:00~14:50

【企画】 中部圏広域地方計画推進室(国土交通省 中部地方整備局 企画部)

【参加】 情報学部・大学院情報学研究科 浦田真由准教授のゼミ学生(B3,B4,M1,M2,D1)23名

【ワークショップ・テーマ】

テーマ① 1班・2班

若者・女性を惹きつける中部圏となるには、将来(10~20年後)の中部圏がどうなれば、若者や女性を輝かせられる、転出がなくなると思われますか？(将来の中部圏に期待するの?)

テーマ② 3班・4班

人口減少下でも、住み続ける、住みたくなるような活力ある地域(=地域力)となるために、何が必要と考えますか？



グループ発表



グループディスカッション 【1班】

【2班】

【3班(中央は浦田先生)】

【4班】

中部圏の将来像について考える(学生ワークショップ)

【学生の主な意見】

テーマ①(若者・女性を惹きつける中部圏となることに期待すること)

- 公共交通機関の発達(中部圏へのアクセス、混雑緩和、交通網の拡充改善)。
- 子育て支援に対する助成金制度や、子育てしやすい街づくりの自治体の仕組み。
- テーマパークや若者の娯楽になるものが少ない。(東京タワーなど)愛知や中部にはシンボルがない。箱ものでなくても文化やイメージとして強いシンボルがあると良い。
- 学生時代に社会との結びつきを強くし、魅力を感じられれば地域への愛着が沸く。
- (将来について)大人が若者とでなく、若者が若者を引っ張っていける場があると良い。

テーマ②(人口減少下でも、住み続ける、住みたくなる活力ある地域に必要なこと)

- 中部は、南北の移動が不便。他の地域からの交通、地域内での交通を強化する必要がある。自動運転化の話があり地下鉄とか電車も自動運転が出来ないか。
- 住みたくなる地域には、仕事を増やすことが必要不可欠で、仕事そのものの魅力や種類を増やすことが重要。
- 最近子育て支援が極めて重視される。子育て支援を充実させた街を作っていく必要がある。
- 防災をちゃんと考えている地域は、これから先も住み続ける一つの理由となる。
- 仕事・娯楽・街づくりの魅力・良いところを伝えるメディアの力。人に伝えることも重要。

全体を通じて

- 悪い意見がある一方、名古屋や中部地方には、住みやすい良い面もある。
- 中部への愛着をもってもらうためにも、若い(小学生)のうちから(継続的に)学校教育で教えるのが良い。